

小児

コーナー

北病院外来
看護師
柘植 陽子



冬に多い子どもの 病気について

冬になると多くなる子どもの病気で代表的なものに、インフルエンザとロタウイルス胃腸炎があります。

インフルエンザは、かかっている人のくしゃみや咳で外へ飛び散ったウイルスを吸い込むことで感染します。予防にはワクチンが有効ですが、それに加えて流行する時期にはなるべく人混みを避けること、帰宅後は必ずうがい手洗いを忘れずにして予防しましょう。

ロタウイルス胃腸炎は乳幼児では最も重症化しやすく、嘔吐、下痢、発熱が主な症状です。乳児対象の経口ワクチンで予防できます。ロタウイルスは患者さんの便や吐いたものに多く含まれ、手・指を介して口に入り感染します。食事の前やトイレの後には手洗いをしっかり行い、流行期には便や吐物の衛生的な処理と次亜塩素酸ナトリウムの消毒液で消毒を行って下さい。

吐物処理セット

(用意しておく便利グッズ)



①ビニール手袋②ビニールエプロン③ペーパータオル(新聞紙でも可)

④次亜塩素酸ナトリウム(キッチン用など)⑤マスク⑥ゴミ袋

※②はなかなか入手にくいので、家庭で無理に準備の必要はありません。